

英単語を効率よく覚えるために

北摂三田高校 人間科学類型田中優羽

研究動機

高校生が大学受験までに身につけておくべき英単語数は **3000~4000** 語と言われており、膨大な数の英単語を身に付ける必要があります。また、グローバル化が進む中で日本を含めたアジアにおいても英語能力の獲得の重要性が増してきています。
→効率よく英単語を習得出来れば、...

先行研究と仮説

先行研究

①リスト(機械的学習)のみを与えて、10分間その暗記だけに集中
②絵または映像をそれぞれの単語に付け加えたものを見せる+単語をALTに発音してもらい、リピート
→所要時間は4分

残り6分、単語の暗記

→この場合ではリスト機械学習の方がたくさん覚えられていた

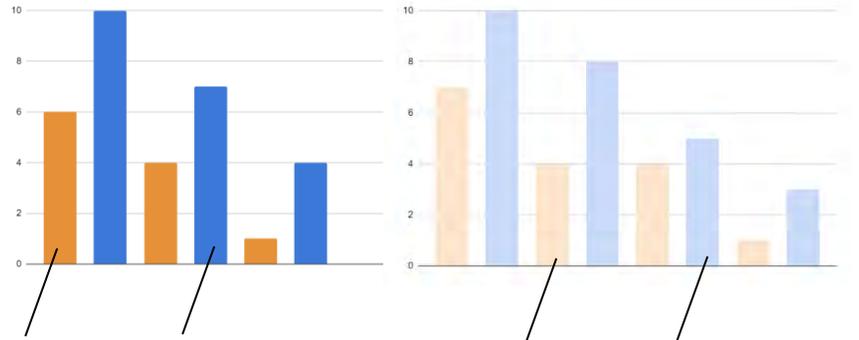
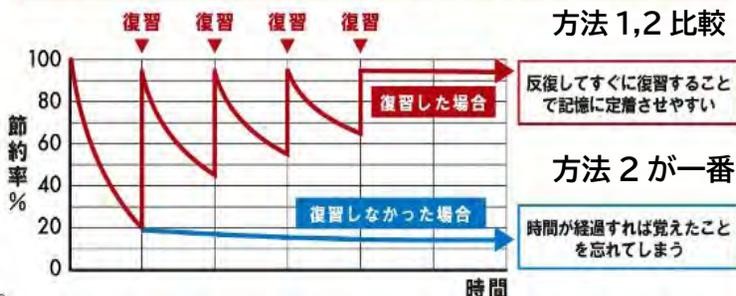
私の仮説

記憶力は目から入るより耳から入る方が強く残るとされており、私はリスニングを入れた方がよく覚えられと考えている。そこで、矛盾が生じているので、その未解決部分も検証していこうと考えている。
また、エビングハウスの忘却曲線から、少し覚えて復習すると繰り返すよりも一気に覚えて復習繰り返す方が覚えることができると仮説を立てられる。

エビングハウスの忘却曲線とは

一度覚えたことを再度覚えるためにかかる時間の「節約率」を時間軸で表したもの

$$\text{節約率} = \frac{\text{節約された時間}}{\text{初回覚えるのに必要だった時間}}$$



日→英 英→日 日→英 英→日
(日本語から英語に直す問題の正解数) (英語から日本語に直す問題の正解数)

実験②

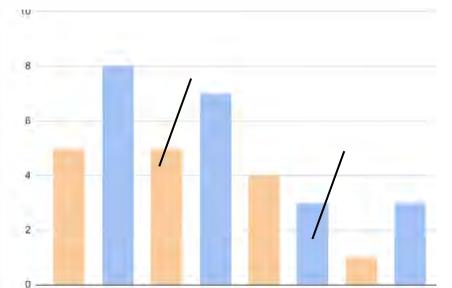
①研究方法

方法3

実験①の方法2にリスニングを入れる
実験①と同様にテストを行う

②仮説

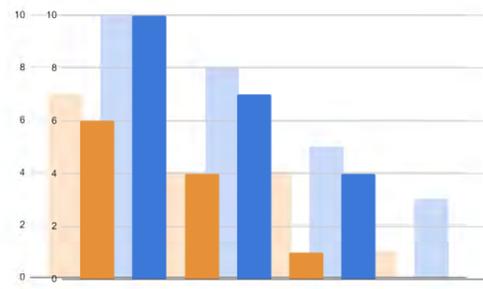
記憶力は「目からの記憶」より「耳からの記憶」のほうが印象によく残る
→リスニングを入れた方がよく覚えられる



③結果

方法2の方が覚えられていた。

印象には残りやすかったが音で覚えてしまうという意見が多かった。



方法2,3比較

実験①

①研究方法(2つの方法で覚えてもらうよう依頼した)

方法1 1日、15単語ずつ。

2日目は1日目の復習+新しく1ページ書いて覚える。

方法2 1日で全45単語、書いて覚える。これをずっと繰り返す。

方法1,2ともに8分×3日間

方法1,2ともに日→英、英→日(各10点)のテストを行う

②仮説

エビングハウスの忘却曲線から復習するほど記憶として定着させることができるということが考えられる。よって、方法2の方が、復習できる回数も多いので方法2の方が覚えられるのではないかと仮説を立てる。

③結果

方法2の方がよく覚えられていた。

結論・展望

①結論

方法2が一番よく覚えられていた→一番効率がいい

リスニングを入れた場合には印象には残るかもしれないが、音で覚えてしまうため綴りが分からなかったという意見がでた。

②展望

今までの実験結果を踏まえつつあたらしい方法で実験を行い、より効率が言い覚え方はなんなのかを模索していきたい。

参考文献

[エビングハウスの忘却曲線とは 最適な復習タイミングと注意点を解説 | ツギフジダイ \(asahi.com\)](https://www.asahi.com)

[英単語の覚え方 | スキマ時間で2000語暗記した7つの手順 \(eigo.plus\)](https://eigo.plus)

[学習方法の違いによる語彙習得率の比較研究 \(eiken.or.jp\)](https://eiken.or.jp)

[聞いて覚える人と見ないと記憶に残らない人の差 大人の勉強にこそ「音読」を取り入れたほうが良い | リーダーシップ・教養・資格・スキル | 東洋経済オンライン \(toyokeizai.net\)](https://toyokeizai.net)